

皆様、ありがとうございます。

午前中のセッションは興味深かったのですが、かなり時間がおしてしまったので、少しでも取り戻すよう努力致します。オーガナイザーの方々には、この会合にイタリアでは二番目に大きいローマ工業連合を招いて下さり、感謝致します。

国際的な経済金融危機からなかなか抜け出せずにいるこの特に難しい時期に焦点を当ててお話をしたいと思います。今日のようなこの会合も今だからこそ、その有効性を発揮すると思います。各国のビジネスコミュニティによって構成されている日伊ビジネスグループのように、共通利益をもたらすテーマの見つけ、専門イベントなどを通して産業協力関係を築いていくというのは大変有効なことです。

先ほどアンプロゼッティのヴァレリオ・デ・モッリ氏が発表して下さったイタリアの GDP のデータをちょっと振り返りたいと思いますが、イタリアでは 5%、日本では 5.2% 減少とのことですが、この国際的不況によって両国における投資が減少し、失業者が増えたことが大きな理由です。イタリアの失業率は上昇し、2009 年には 7.8% に達しましたが、今年度も 9% 近い数字で締めることとなりそうです。特に南では 15 歳から 24 歳の若者の失業率が高いことが緊急問題となっており、イタリア産業連盟もこの問題を非常に重要に捉えています。日本も失業率は数字としては低めですが、2008 年の 3.9% から 2010 年には 5.1% と上昇してきています。したがって大企業も今の時期がこの不況の中でも雇用に関しては最も劇的で大変な時期だと認識していることでしょう。しかし不況の影響に加え、イタリアと日本はマクロ経済では同様の特徴を見せており、高い債務残高を抱え、高齢化が進んでいるという問題を抱えています。

日本とイタリアは貿易により既に前世紀後半から国の経済を立ち上げ、産業ブームを起こしてきました。今日では低い内需により、再び国際市場における挑戦に立ち向かおうとしています。貿易で利益増加させる余地はまだあり、日本は 2009 年にはイタリアの輸出先として 18 番目、輸入元としては 16 番目でした。日本はまた、資本の輸出国でもあり、GDP の 3% 以上が海外投資に当てられ、2010 年には 1750 億ドル以上を海外に貸与しています。イタリアもこういった投資の流れをとらえ、現実的且つ効率的に投資を誘致する必要があります。

このコンテキストにおいて、私のテリトリーであるローマおよびラツィオ州の企業は、非常に大きなポテンシャルを持っているので、官民両者とも投資誘致のために努力をしていくべきだと思います。傾向としては、テクノロジーイノベーション度の高い分野が多くなってきており、これらの分野でこそ様々な協力関係を結んでいくことができるのではないかと思います。ですからイタリア企業は日本経済から大きなチャンスを与えられているということに敏感にならなくてはなりません。

ローマのテリトリーの起業家達の将来的予測はあまり楽観的なものではありませんが、2010 年前半の状態が少し回復してきて、起業家達の信頼を取り戻す第一歩とはなりましたが、まだまだ満足のいく安定状態ではありません。しかし、今こそ我々の経済を飛躍させるために理想的な時期であるともいえます。効率的で、このテリトリーの生産組織に還元される投資誘致を行う必要があります。そして輸入・輸出の価値を高めていかなければなりません。

ラツィオ州についていくつかの重要なデータをご紹介しますが、2010 年前半には日本向けの輸出がほぼ 60%と、大幅に増大しました。素晴らしいパフォーマンスで、主に製薬分野によるもので 1 億 9 千万ユーロを占めますが、これはラツィオ州の輸出量の 78%です。しかしファッション業界向けのテキスタイル分野も著しく成長し、ブルガリ、プリオーニなどローマファッション業界の老舗は既に安定したポジションを日本で得ています。ちょっと個人的な話も加えますが、私は葉巻生産者ですが、イタリアの葉巻、正確にはトスカーナ葉巻も今月より最大手の日本たばこ協力関係を結ぶことになり、日本に流通するようになります。今月からもう一つ新しい Made in Italy が日本で商品化されるのです。

従来からあまり盛んでなかった輸出も、今日ではラツィオ州はイタリアでも有数の日本向け輸出テリトリーになりつつあり、ロンバルディア州とエミリア=ロマーニャ州に近づきつつあります。この 2 つの州は日本のみならず全体において最も輸出量の多い州です。ロンバルディア州は歴史的に輸出の多いテリトリーでありましたが、ラツィオ州は新参者として入りながらも、すぐにアクティブに動いてトップに近い地位に近づいています。

いずれにせよ明白なのは、貿易には両国経済が持つポテンシャルがまだまだ秘められています。特に科学研究、環境、再生可能エネルギー、イノベーション度の高いテクノロジー分野と中小企業の役割は、将来的な産業協力関係において鍵となる挑戦項目です。

科学研究およびテクノロジー移転に関しては、日本は大学機関と企業が昔から協力関係を築いてきました。しかしイタリアではやっと近年、大学の研究活動が産業界に近づいてきたところで、新しいタイプの協力関係が生まれつつあります。ラツィオ州には多くの重要な研究機関の本部や大学があります。ローマ県だけでも研究機関は 250 以上あります。テクノロジー分野での活動がめざましい大企業には、産業システムの重要分野として我々工業連合も注目しており、ザッパ会長のフィンメッカニカのサポートを受けながら、イノベーション普及を促進し、中小企業へのテクノロジー移転も視野にふまえながら、研究機関との協力関係に役立てようとしています。

中でも特に 3 つのテクノロジー産業クラスターを有効利用したいと思っています。まず航空宇宙工学ですが、皆様の中には昨日重要な 2 つの企業、タレス社とエレットロニカ社をご見学なさった方がいらっしゃるでしょう。それからバイオサイエンス、そして文化財および文化活動です。

航空宇宙工学に関しては、ラツィオ州生産組織の最も重要な戦略的分野であり、イタリア初のこの分野の産業クラスターで、250 以上の企業があり約 3 万人が働いています。そして総売上は 50 億ユーロ以上です。このクラスターには 10 の研究機関と 5 つの大学があり、プラス多くの中小企業がサブサプライヤーとしてエレクトロニクス、IT、生体工学関連の製品を製造しています。ですからラツィオ州は日本にとって非常に魅力ある投資先、製品取引、テクノロジー交流のパートナーとなることができます。

もちろん、協力関係においては相互的に容易に進めていくことができるよう、努力しなければなりません。そしてイノベーション分野だけでなく、従来からの各種製品の貿易を継続していきたいと思えます。さらに中小企業も、可能であれば欧州連合のツールなども利用し、日本市場に直接参入できるような体制を築きたいと思えます。イタリア工業連合は、各行政機関などの協力やツール

を利用し、中小企業が日本市場に効率的に立ち向かうことができ、知識、ノウハウ、専門能力の交流が盛んになるよう、支援していくつもりです。今日のこの重要な会合から、相互的に利益をもたらすコラボレーションモデルが生まれることを願っております。

ありがとうございました。